

氏 名 山本 伸子
学位の種類 博士 (医学)
学位記番号 乙第306号
学位授与年月日 平成27年3月4日
審査委員 主査 教授 猪俣 泰典
副査 教授 田島 義証
副査 教授 秋山 恭彦

論文審査の結果の要旨

近年、マンモグラフィ (MMG) 検診の普及に伴い非触知石灰化病変が多く検出されるようになってきている。その診断にステレオガイド下吸引式乳房組織生検 (SVAB) は有用であるが、侵襲を伴うため適切な症例選択が重要である。乳癌診断に従来の1.5Tと比較して3T-MRIの有用性が報告されており、本研究ではMMGで検出された乳腺石灰化病変のSVAB適応決定における3T-MRIの有用性を検討した。

MMGで検出されたカテゴリー (C) 3以上の石灰化病変のうち、超音波検査で異常所見のない55症例を対象として3T-MRIの精度を検討した。MRI診断はACRのBI-RADS-MRIに基づいて評価し、C4以上を悪性、C3以下を良性と診断した。MRIで悪性と診断した症例は20例で、病理では悪性19例、良性1例 (ductal adenoma) であった。MRIで良性と診断した症例は35例で、この内2例が病理では悪性であり、偽陰性2例はいずれも非浸潤性乳管癌 (DCIS) であった。DCISは新生血管の増生に乏しくMRI濃染が目立たない場合がある。また背景乳腺の造影効果が目立つ場合は乳癌の検出感度が低下することが知られている。よってこのような場合は他検査との総合的な判断が必要である。3T-MRIの乳癌検出率は、感度90.5%、特異度97.1%、陽性的中率 (PPV) 95.0%、陰性的中率 (NPV) 94.3%、正診率94.5%と良好な結果が得られ、石灰化に一致したMRI濃染がある場合はSVABを積極的に施行し、ない場合は不必要な生検を回避できることを明らかにした。

本研究は乳癌の早期発見における非触知石灰化病変のSVAB適応決定に有用で臨床的に価値の高い研究であると判断した。